

研究主題「めあて・まとめ・確かめ（評価問題）を貫いた授業づくり」
 ～かく活動と学び合いのある算数科学習を通して～

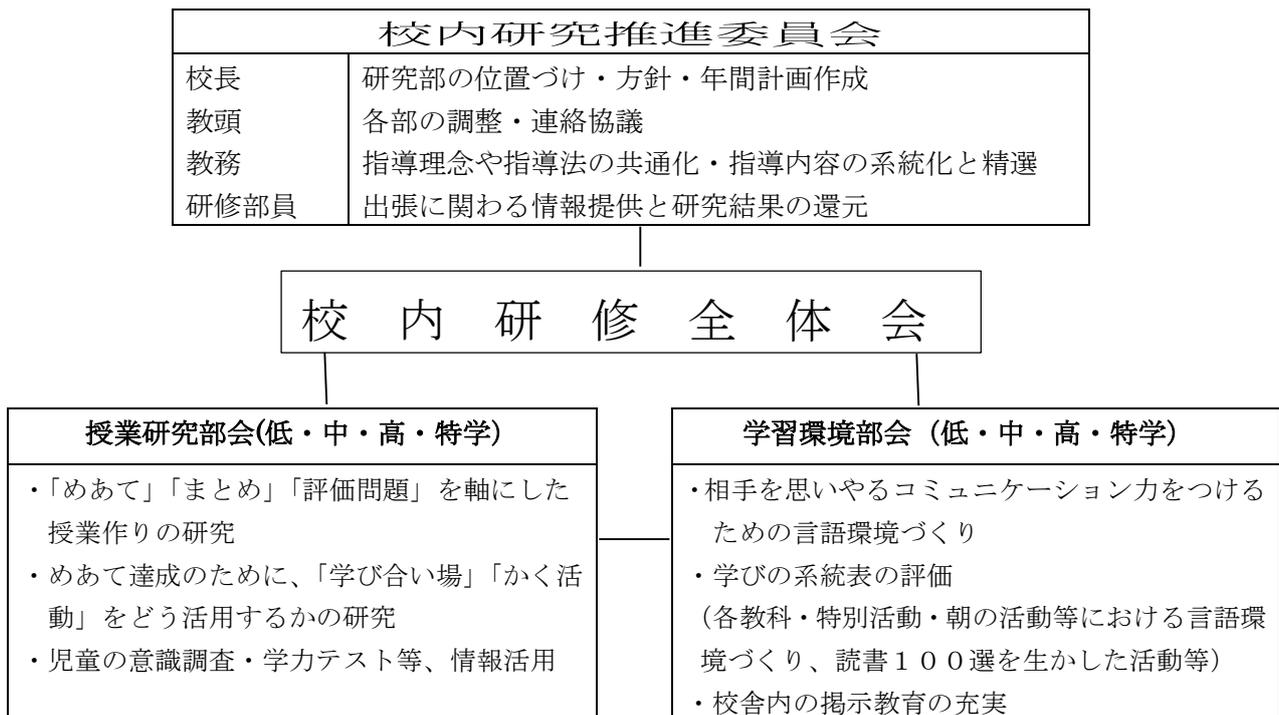
1 主題設定の理由

本校では、平成26年度から2年間、市の研究指定を受け、「学ぶ意欲を高め、自ら考え表現する子どもの育成」を主題に、また、サブテーマを「豊かな言語力を培い、互いに学び合う授業づくりを通して」とし、「学びの基礎力の定着」「言語力の向上」「確かな学力の育成」を柱として研究を進めてきた。その成果として、「学びの基礎力の定着」では、「学習規律」「家庭学習」が身に付いてきた。「言語力の向上」では、読書活動の推進・のびやかタイムやスマイル活動の充実・言語環境の整備などを通して、表現力を向上させることができてきた。「確かな学力の育成」では、学び合いの授業スタイルの確立・授業改善の推進などを通して、学ぶ意欲を持ち、思考し、表現できる子どもが増えてきた。しかし、次のような課題が見えてきた。

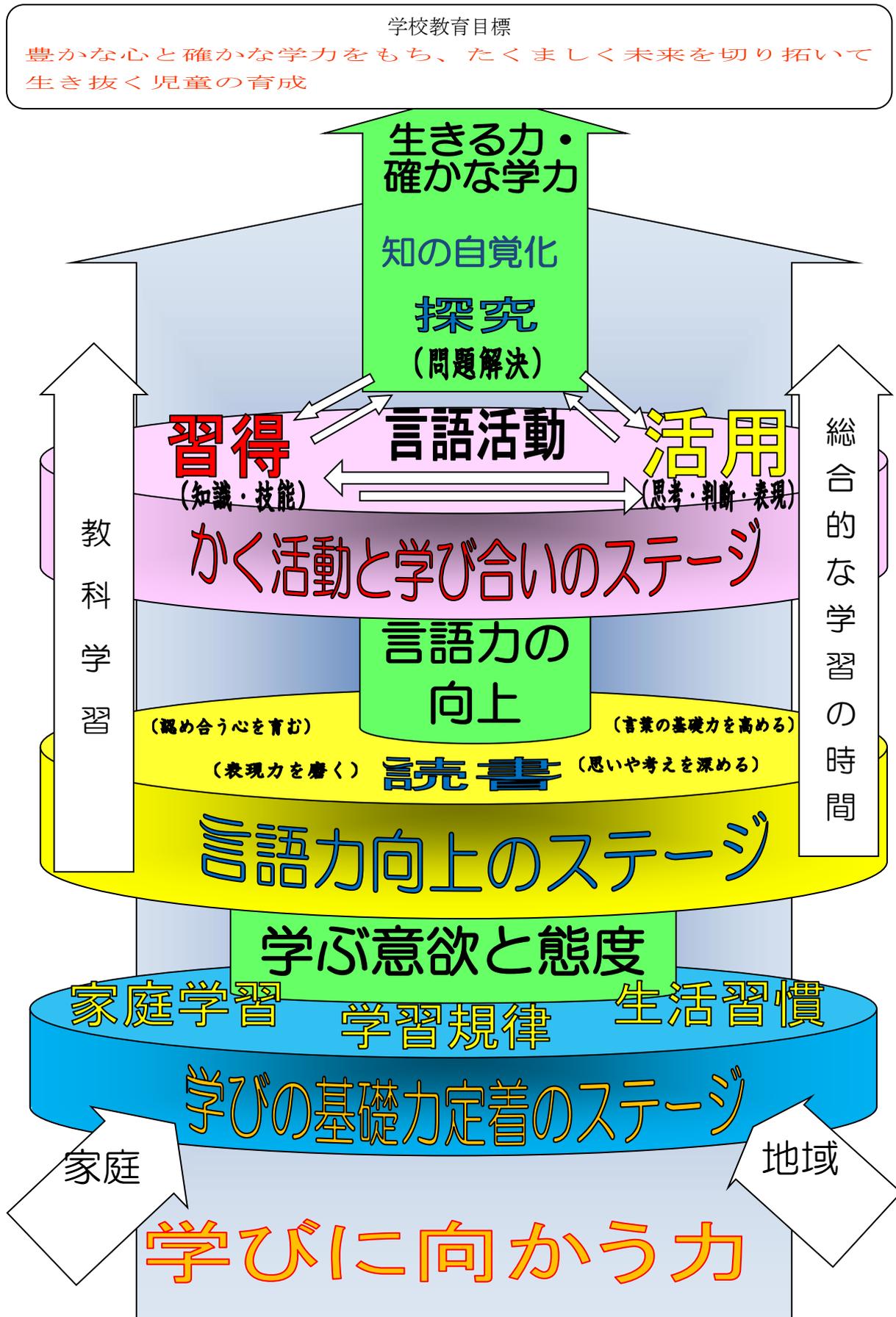
- ① 結果を保障する授業作りが不十分であること
 - ② めあての達成に結び付くような「かく活動」や「学び合いの場」を充実させること
 - ③ 個の能力や特性に応じた家庭学習の内容やあり方を工夫し基礎学力の定着を図ること
- そこで、研究主題を「めあて・まとめ・確かめ(評価問題)を貫いた授業づくり」とし、サブテーマを「かく活動と学び合いのある算数科学習を通して」として研究を再構築した。

授業の終末において、一人一人の子どもが、何ができるようになって、何が課題なのかがわかる授業づくりを目標に、「めあて・まとめ・評価問題」をキーワードに研究を進め、本校教育目標を達成すべく本主題を設定した。

2 研究組織



3 研究全体構想



4 研究におけるめざす児童像

- (1) 学んだことを身に付け、それを生かしながら探究していく子
- (2) 意欲的に考え、自分や友達の考えを大切にすること
- (3) 友達とともに学び、思いやりのある自分の言葉で表現する子

5 研究仮説

言語力向上を図る活動をもとに、算数科学習において、確かな学力を付けるための言語活動を生かした学び合う学習に取り組み、しっかりとした評価を行っていけば、児童は意欲的に学び、確かな学力が身に付き、思考力・表現力を育成することができるであろう。

◎ 言語力向上を図る活動とは

＜基礎・基本の定着＞

○ 言語力向上のための時間設定

- ・ 読書タイム
- ・ 国語タイム、ミニ学習発表会(音読・俳句など)
- ・ 日直によるスピーチ
- ・ 新聞記事の要約や感想発表 等

＜言語の力を高める＞

○ 読書活動の充実

- ・ 学習情報センターとしての活用
- ・ 佐世保市立図書館との連携
- ・ 「天神小学校おすすめの本100選」の選定
- ・ 本の紹介カード等の掲示
- ・ 読み聞かせ活動の充実
- ・ 家族10分間読書の推進

◎ 確かな学力を付けるための言語活動を生かした学び合う学習とは

対話の力を育て、その力を生かしてめあての達成に向けた学び合いを効果的に取り入れ、学びの獲得ができたかを評価できるような算数科の学習を行う。

◎ しっかりとした評価を行うとは

ねらいに即したまとめをし、評価問題を行うことにより、学習したことがどの程度、子ども達に身に付いたかを客観的に把握し、次の指導に活かしていく。

◎ 思考力・表現力の定義

＜思考力＞

○ 算数科

- ・ 算数的活動と関連させたり、既習内容を手がかりにしながら問題解決に向けて考えたり、かいたり、学び合いの場で友達と意見交換をしたりすることで学びを深めていく力

＜表現力＞

○ 算数科

- ・ 課題についての自分の考えや深まった考えを言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いて筋道を立ててかいたり、説明したりできる力

6 研究内容

(1) 学びの基礎力を身につける

- ① 家庭学習の習慣化と質の向上
- ② 学習規律・基本的生活習慣の確立

(2) 言語力を向上させる

- ① 表現力を磨くミニ学習発表会（学年ごとに発表）の充実
- ② 言葉の基礎力を高める国語タイム（音読、暗唱等）の充実
- ③ 思いや考えを深める読書活動の推進

(3) 確かな学力を育成する授業を創造する

- ① 「めあて・まとめ・確かめ（評価問題）を貫いた授業研究
- ② 「かく活動」「学び合う活動」をめあて達成に有機的に機能させる研究
- ③ 各教科における言語活動の充実
- ④ 知りたいことを探究し、自己の生き方をみつめる「総合的な学習の時間」の充実

7 研究効果を把握するための方法

- ・ 評価問題のデータ化【授業研究部】
- ・ 読書の冊数・内容の実態調査【図書担当】
- ・ 学力テストの実施（年1回・1月）と考察・分析【研修部員】
- ・ 全国学力、学習状況調査の実施（4月）と考察・分析【全職員】
- ・ 研究授業の実践【全職員】
- ・ 家庭学習・学習規律等のカード配布【研究主任】
- ・ 集会活動の実施【朝の活動担当】

8 期待する研究の効果

- (1) あらゆる場と機会 で年間を通して言語を使う取組を意識して行うことにより相手を思いやるコミュニケーション力が向上すること、それが姿として見えること
- (2) 「めあて・まとめ・確かめを貫いた授業づくり」の実践により、1時間の授業で何ができて何が課題かが明確になること、それが数値として見えること
- (3) 「かく活動」「学び合い」が授業のめあて達成のために有機的に働くことにより、思考力・表現力・言語力の向上を図り、学力が向上すること。それが数値と姿で見えること

9 運営計画

- (1) 校内研修全体計画の共通理解をのものと、全職員で運営を図る。
- (2) 各部会は、研究主題・研究仮説に基づいて研究を推進する。
- (3) 研究仮説に基づいて授業を行い、研究を深める。
- (4) 授業を有効に行うための基盤となる授業づくり・仲間づくり・学級づくりを進めるため、学習支援・生徒指導・学級経営にも力を入れる。
- (5) 授業で使用した資料・教材・教具や子どもの感想・作文・作品・写真などを保管し、次年度以降も活用できるようにしておく。
- (6) 年間計画に基づき、各部会や全体研究会を開き、研究を推進する。
- (7) 必要に応じてカリキュラムの改善も行う。
- (8) 授業研究は、各学級・学年及び教員の特色を生かしながら計画して実践する。
- (9) 研究授業は原則として全職員（専科も含む）で実施する。うち全体授業を学年1回、その他は部会単位とする。特別支援学級の研究授業は、いずれかの学級を1回は参観する。
- (10) 全体会や部会は、木曜日の研修の時間に行うことを原則とする。
- (11) 現職教育として、道徳の教科化に向けた指導計画別様等を長期休業等を利用して作成する。その他、特別支援教育・情報教育・外部講師による講習会など、担当で計画的に行う。
- (12) 年度末には研究集録を作成する。

10 研修計画

日程(予定)			研究部会	現職教育
4月 5日(水)	①	全	全体会 ¹ 校内研修全体計画	
4月 6日(木)	②	専	2部会(1) 専門部計画 (メンバーと内容確認)	
4月 20日(木)	③	専	授業研究部会① (研究授業時期の決定等)	
5月 25日(木)	④	専	2部会(2) (取組計画)	
6月 29日(木)	⑤	全	提案授業 ² (算数の指導案形式と授業スタイルの確認) (6学年授業研究)	
7月 6日(木)	⑥	全	全体会 ³ (2学年授業研究)	
夏休み中(7・21)	⑦	専	2部会(3) (休業中の取組詳細計画など)	
夏休み中(8・9)	⑧	現		道徳
夏休み中(8・21)	⑨	現		学力テスト分析
夏休み中(8・31)	⑩	専 全	授業研究部会② (指導案検討など) 研修報告	
9月 21日(木)	⑪	全	全体会 ⁴ (4学年授業研究)	
9月 28日(木)	⑫	専	授業研究部会③ (指導案検討など)	
10月 6日(金)	⑬	専	2部会(4) (前期の振り返りと後期の計画)	
10月 19日(木)	⑭	全	全体会 ⁵ (3学年授業研究)	
11月 9日(木)	⑮	全	全体会 ⁶ (5学年授業研究)	
11月 30日(木)	⑯	全	全体会 ⁷ (1学年授業研究)	
12月 7日(木)	⑰	全	全体会 ⁸ (特別支援学級授業研究)	
1月 18日(木)	⑱	専	2部会(5) (研究のまとめ)	
1月 25日(木)	⑲	専	授業研究部会④ (研究のまとめ)	
2月 8日(木)	⑳	全	全体会 ⁹ (研究の成果と反省)	
3月 1日(木)	㉑	全	集録製作	

※研修合計 21回

【全体・・・11回 専門・・・9回 (授業研究部会4回、2部会5回) 現職教育・・・2回】

※2部会(授業研究部会、学習環境部会)は、低学年・中学年・高学年・特別支援に分かれて行う。

※現職教育の計画及び内容検討は、研究主任が調整し、各担当を中心に行う。

※部会授業は、低・中・高・特別支援ブロック別に行うが、指導案は全員に配布する。

※研究授業期日、時間は、1週間前には、全職員に知らせる。週行事予定に示す。